

あきる野市 平成22年(2010) 3月31日 第16号

# 町・自連会報

発行/平成22年 3月31日 発行者/倉田克治 編集/あきる野市町内会・自治会連合会会報部会

二年続けての穏やかで、不況の中での年明けでした。昨年との違いは政権が変わり、期待と不安が同居した中での出発で、経済的にはいまだに先が見えず、何時になったらトンネルを抜け出ることが出来るのか不安です。これは政権が変わることによる急激な変化に戸惑いも重なって助長されているのかもしれない。一方、ハイチ、チリで大地震災害が発生し、またも大きな被害になりました。これを対岸の火と見てははいられません。経済的や災害を含めて、年明けのように穏やかな日々が早く訪れることを願っています。



## ご挨拶

さて、連合会の今年度の主活動は、①補助金10%カットでの予算編成、②防災・安心地域委員会の推進、③町内会・自治会への加入促進の3点で、ほぼ順調に推移しております。

まず、①は事業の見直し、②は若干の遅れはあるが順調に推移し、③については、防災マップの配布、不動産協会との契約等で僅かですが加入増となりました。又、啓蒙活動として、東京都の「地域の底力」事業の協力を得て、堀尾正明さんを講師に講演会を開催し、好評を得ました。

今年には会長の改選期で、新体制となりますが、新年度の主要事業は、防災活動(防災・安心地域委員会)と加入促進です。両事業共、長期的観点に立った事業です。

関東大震災級の地震は、30年以内に来ると言われています。最小の被害で止めるには、地域力で、地域委員会や自主防災組織の活動を通して高め

て行きたい。

加入促進は、世の中の変容で「向こう三軒両隣」という助け合いの世の中が薄れて、「隣の人は何をやる人ぞ」に変わっており、これを元に戻し元気で、楽しく「安全・安心で住みやすい街づくり」を目指して参りますので、皆様方におかれましては、今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

### 会員の加入促進対策

あきる野市町内会・自治会連合会の加入促進部会では、予てより計画してまいりました会員の加入促進を図るため、当市への転入者を対象に、一〇月、十二月に(社)全日本不動産協会及び東京都宅地建物取引協会の両団体と協定を締結し、各店舗で住居を紹介する際に、東京都「地域の底力」事業の助成金で作成したチラシを配布して、町内会・自治会への入会の斡旋をして頂いております。

また、一月三〇日には、秋川キララホールに元NHKアナウンサーの堀尾正明さんを招いて講演会を開催し、当日はあきる野白井市長を始め、会場いっぱいのお客様のご来場を戴き盛況に行いました。

堀尾さんの巧みな話術に引き込まれ、TV番組の裏話から本講演の主題である「ご近所力」へと進み、これからの日本は人口が減少を続け、それ故に国の財政問題から行政サービスにおいて制約ができて、一方で、地域では困り事や要望も多様化していくことから、「自分たちの地域は自分たちで守ろう」と立ちあがって成功した事例として、東京都杉並区の「空巢撲滅運動」のビデオ放映を交えながら聴衆の皆様によく語りかけて、このように成功しているケースは、「志を持ったリーダーが居て事を進めている」と話されておりました。

あきる野市町内会・自治会連合会  
会長 倉田克治

## あきる野市町内会自治会連合会全体・役員会議事録

- | 平成21年   | 平成22年  |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>● 9月15日(役員会)               <ul style="list-style-type: none"> <li>● 地デジ説明会</li> <li>● 地域懇談会の日程</li> <li>● 個人情報保護制度の説明会</li> <li>* スポレクの在り方</li> <li>* 各地域委員会の報告</li> <li>* 部会活動報告</li> </ul> </li> <li>● 10月13日(役員会)               <ul style="list-style-type: none"> <li>* 視察研修説明</li> <li>* スポレク検討結果</li> <li>* 部会活動報告</li> </ul> </li> <li>● 10月13日(全体会)               <ul style="list-style-type: none"> <li>● 福祉バザー協力のお祝い</li> <li>● 防災訓練実施要領</li> <li>● 井戸水調査</li> <li>● あきる野市産業祭の案内</li> <li>● 市秋季一斉清掃要領</li> <li>* 視察研修</li> <li>* スポレク検討結果</li> <li>* 各地域委員会の報告</li> <li>* 部会活動報告</li> </ul> </li> <li>■ 11月11・12日(連合会視察研修)               <ul style="list-style-type: none"> <li>防災対策(柏崎市役所)</li> <li>環境対策(柏崎刈羽原子力発電所)</li> </ul> </li> <li>● 11月27日(役員会)               <ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域懇談会の報告</li> <li>* 泉町防災コンクール考察</li> <li>* 視察研修の報告</li> <li>* 第4四半期の活動予定</li> <li>* 各地域委員会の報告</li> <li>* 部会活動報告</li> </ul> </li> <li>■ 12月21日(西多摩研修会(正副会長))               <ul style="list-style-type: none"> <li>「地域力の向上について」</li> </ul> </li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 1月8日(役員会)               <ul style="list-style-type: none"> <li>● ふれあい福祉委員の推薦</li> <li>● 健康づくり推進委員の推薦</li> <li>● 廃棄物減量等推進員の縮減</li> <li>● 『おとなが手本あきる野市』のアンケート協力依頼</li> <li>* 新年会の実施要領</li> <li>* 加入促進の講演会役割分担</li> <li>* 会報16号掲載内容と日程</li> <li>* 都宅建協会西多摩支部と協定締結</li> <li>* 各地域委員会の報告</li> </ul> </li> <li>● 2月16日(役員会)               <ul style="list-style-type: none"> <li>* 全体会に向けて</li> <li>* 22年度連合会定期総会までのスケジュール</li> <li>* 部会活動報告</li> </ul> </li> <li>● 2月16日(全体会)               <ul style="list-style-type: none"> <li>● 秋川・平井川の草刈</li> <li>● 献血のお祝い</li> <li>● 21年社会福祉事業報告</li> <li>● プラムボックスウィルスによる症状・被害感染防止</li> <li>● 民生児童委員改選の協力</li> <li>● イキイキ元気づくり事業</li> <li>● あきる野市A D E設置状況</li> <li>● 地域底力再生事業継続説明</li> <li>* 会報(16号掲載内容)</li> <li>* 加入促進(講演会の報告)</li> <li>* 役員交代期の移動報告</li> </ul> </li> </ul> <p>(注) ●は市の連絡事項<br/>*は協議、報告事項</p> |

## 行政と連合会との地域懇談会を開催

あきる野市が秋川市と五日市町で合併して以来、行政と地域との意見交換をする機会がなかったことを受けて、昨年一〇月に、市三役・市幹部職員と町内会・自治会正副会長及び地域委員会役員が出席して、市内六地区(東秋留、多西、西秋留、増戸、五日市、戸倉・小宮)で地域懇談会を開催し、「市政運営と町内会・自治会の連携」により、地域の防災体制、防犯活動を強化するための取り組みについて、活発な意見交換を行いました。

主な課題は

- 一 行政運営について
  - 行政改革に関すること
  - 借入金等に関すること
  - 地域の防災体制
- 二 町内会・自治会未加入世帯への対応について
  - 防災活動における行政支援について
  - 地域の防犯活動について
  - その他
- 三 郷土の恵みの森構想
  - 町内会自治会運営
  - 教育に関する事項
  - 地域活性化に関すること
  - 都市整備に関すること

この懇談会で交された意見・質問は、要約して市のホームページに掲載されています。今後も機会をとらえて、継続的に地域懇談会を開催していく予定です。



## 編集後記

会報16号も、前号同様に事業展開が主体で掲載内容が硬くなりました。

加入促進対策では、不動産協会の協力で加入斡旋、そして、講演会の開催内容、中越沖地震被災地の防災体制等を参考に、会員の皆様に加入促進の必要性を理解戴き、平素近隣の未加入者に機会を捕らえての呼びかけが求められています。

また、地区防災・安心地域委員会の活動も地域の協力体制・取り組みで進捗も開きが見られます。各種課題の推進過程で会員の皆様には、ご協力をお願いすることがありますが、一日でも早い「安全・安全の街づくり」の実現に向けて宜しく願います。

会員の皆さんが、掲載内容をお読みいただき、今後の事業展開に向け、具体的なご意見を拝聴頂ければ幸いです。

会報部会 山下松壽



# 防災・安心地域委員会への進捗状況

私たちの地域に於いて、何かをやるうとした時又は今までの研修会、見学会等の体験からも、堀尾さんが話されたように、そこには必ず「すばらしいリーダー若しくはグループが存在し」事を進めています。



加入促進部会においても会員の皆様一人一人のお力をお借りしながら近隣の未加入者に加入促進チラシを配布して戴き、また、大規模な未加入団地等には市三役、連合会役員が直接出向き、自治会の設立を支援しているケースもあり、加入促進が着実に図られています。

加入促進部会 中井公康

今年度は、地区防災安心地域委員会を中心に、防災マップの全世帯配布、住民数を町内会・自治会（以下「地域」という）別に把握、自主防災組織の拡充、防災マニュアルの作成、市指定避難所に向けた防災訓練、避難所運営体制並びに要援護者支援体制の確立に向け取り組む計画でした。

しかしながら、会員加入率の低い地域では、防災対策は全市民が対象となるため会員の加入促進を優先しなければならず、一律には推移していかないが、事項別の推進状況は、次ぎのとおりです。

## 一 住民数の把握

地域別住民数の把握により、各地域の世帯別会員名簿の作成、未加入者の確認、避難所の地域割等に活用している。

なお、住民数の把握をアンケート方式で調査した地域では、会員の家族及び要援護者並びに援護支援者の意向確認も行い、避難時の安否確認及び緊急時の支援体制の確立に活用しています。

## 二 自主防災組織の拡充

発災時の対応方で「被害は最小に止められる」と言われ、各地域では、自主防災組織を設立し、組織規約、会員名簿の整備、役割分担を定め、防災倉庫を備えるなど拡充に努めており、一部には、自主防災組織、防災倉庫のない地域も見受けられます。

## 三 防災訓練

今年度からは、地区地域委員会が設立され、地区合同で市指定避難場所に向けた避難訓練を行いました。

総合防災訓練に指定された多西地区は8地域が参加して幅広い訓練を体験しました。その他の六地区は、全地域参加が3地区、他の地区は行事が重り別途に実施した地域もあり、市全体で延べ60地域が参加しました。

## 四 防災マニュアルの作成

住民に防災知識・意識を高めるために、地区別の標順防災マニュアルを示し、地域別に編集し全戸に配布した地区と、地域独自で作成し全戸に

## 五 避難所運営体制の確立

配布した地区もあります。大半の地区は、住民数の把握から、避難所の地域割を済ませていくが、運営体制の確立に向け運営業務、役割分担、設備管理、防災倉庫の確保等を検討した地区は少ない。多西地区では、避難所（御堂中学）の宿泊研修を体験、48名が参加し避難所運営体制の確立に取り組んでいます。

## 六 要援護者の支援体制

把握した要援護者の支援対策として、東京都「地域の底力」事業を活用し、本人・家族の同意を受け要援護者を消防署に登録し、緊急時に支援者が的確な救助活動ができるように「緊急医療情報キット」を要援護者世帯に配布、必要な医療情報を記入、冷蔵庫に保管し活用するとともに、かつ、要援護者単位に近隣の援護支援者を指定するなど、家族が不在の時でも安心して過ごせるような支援体制を確立し、増戸地区を対象に、活用を開始しました。

## 七 地域委員会本部の設置

平成二二年度を迎え地域委員会役員の大半が交代することから、今日まで培ったノウハウを有効に活用するため、現行の委員で協力できる方に、後継者育成と未完成事項を円滑に推進するため、防災・安心地域委員会本部を設置して、委員として活躍いただくための規約改正を行い、四月一日から施行することになっています。

（防災・安心地域委員会）

## あきる野市総合防災訓練

平成二二年一月一日(日)の午前、市内各地域の一時避難場所・市指定避難場所と拠点となった市民プール駐車場を会場として、総合訓練を実施しました。

当日は好天にも恵まれ、60町内会・自治会が参加し、市が示した全地区統一訓練としてそれぞれの一時避難場所から市指定避難場所までの避難訓練、その他に防災・安心

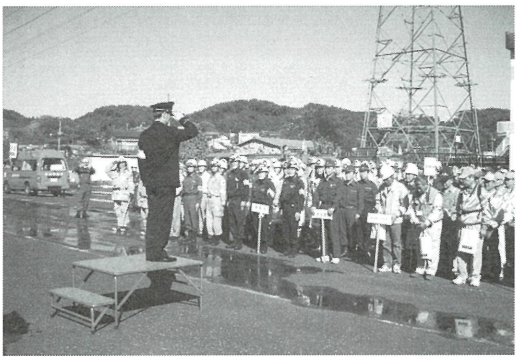
地域委員会が検討している課題等を把握するための地域ごとの訓練、市幹部職員による参集訓練と災害対策本部設置・運営訓練など、様々な訓練を行いました。

また、拠点会場の市民プール駐車場では、多西地区の8町内会・自治会が参集し、消防署の指導による応急救護訓練や煙体験、国土交通省の降雨体験、赤十字奉仕団による炊き出し訓練など、関係機関と連携した訓練を通して災害発生時の対応を学びました。

市としては、近年発生する様々な災害に関する報道等により、町内会・自治会での災害対策に関する意識が高まっていることに後押しされ、全体的な訓練を計画し実施しましたが、幾つかの課題も見えてきました。訓練は繰り返し行い、いざという時に一人一人が自然に体が動くようになることが大切であると考えますので、今後、市・市民、防災関係機関と話し合いをしなから、防災・安心地域委員会など地域による訓練内容をより充実したものにし、次ぎの総合防災訓練につなげていき

たいと思います。

総務部 地域防災課



## 連合会視察研修について

平成二二年度の町内会・自治会連合会の研修は、十一月十日から十一日にかけて参加55名で、新潟県柏崎市役所及び柏崎刈羽原子力発電所等を尋ね実施しました。

柏崎市は、平成一六年の中越地震、平成一九年の中越沖地震と三年間に二度の地震に被災されております。

中越沖地震の被害概要について、防災・電子力課吉原浩樹主幹から説明があり、被害状況は、震度6強（マグニ

チュード6.8）人的被害は死亡14人、けがが1664人、であったが、平成二〇年十二月には、全て規制が解除されました。

その後、北鯖石コミュニティ振興協議会の間島みよ子さんによる「講演」があり、北鯖石コミュニティ振興協議会は、昭和五三年に小学校単位に一箇所設置されているため、コミュニティセンターを中心に、65名の委員と21名の常任委員で、更に各専門部会で構成され活動しています。これらの活動費の一部は地域負担として4000円/戸をお願いしています。

センターの利用率は、市内31箇所あるがトップの1283件31、325人と日頃から町内会組織と隣近所は大事にしなければならぬという理由から地域活動を展開していることから伺えらる。

いざという時に備え、各町内会長を中心として平成一九年度に自主防災組織を立ち上げるといふ全地域住民の合意ができあがった。（組織率は災害の影響もあって40%、96.5%になっている。）この組

織を強化、継続するためワークショップや啓蒙活動を数多く開催し、ノミニケーションを図っている。また、独自に「避難所マニュアル」を作成し全戸に配布している。

災害時の行政との連絡は、行政無線だけのため一方通行となってしまうのが課題であり、携帯電話や固定電話は、電話だけではつながっていない。また、仮設トイレ等の生活水は、子供たちのバケツリレーによりプールの水を活用し、大いに役に立った。しかしながら、災害時には、自主防災組織や「避難所マニュアル」が機能しない部分があり、現在見直しを図っています。

地域住民の緊急時の医療情報を知らせるため「もしもの時のお助けボックス」を各家庭の冷蔵庫に設置することによって、親族等にいち早く連絡することのできる体制が整備されていきました。

翌日は、雨の中の研修となりましたが、原子力発電所から放出される放射性物質や放射線が周辺環境に及ぼしていない施設を視察しました。

柏崎刈羽原子力発電所は、新潟県のほぼ中央部に位置し、柏崎市と刈羽村に跨る約420万平方メートル（東京ドーム90個分）の敷地に、沸騰水型原子炉110万KWが5基と世界初の改良型沸騰水型135・6万KW2基の合計7基が配置されています。7基が同時に運転しますと合計出力は、821・2万KWで世界最大の発電所です。

電子力発電は、資源に乏しいわが国のエネルギー安定供給や地球温暖化をもたらすといわれているCO2の削減に大きく貢献しています。

今回の研修は、「防災」「環境」のテーマに基づき実施されましたが、今後、各地域の防災・安心地域委員会に生かしていただくとともに、特色がある自主防災組織の立ち上げに参考になればと願っております。結びになりますが関係者の熱意には学ばせていただきました。

視察研修幹事長 山口幸男